

# 愛知発祥銘柄「日本晴」に学ぶ種子生産の工夫

－開発途上国の稲作研究者が、愛知県農業総合試験場を視察－

JICA 中部は、6月27日から8月10日まで、国立大学法人名古屋大学と協力して、アフリカ各国の稲作分野の研究者や行政官等を招聘して、稲作栽培に関する様々な研修を実施します。

本研修の一環として、研修員が愛知県農業総合試験場を視察します。愛知県農業総合試験場は、1963年に「日本晴」という品種のイネを開発し、「日本晴」は、その後、1970年から1978年までの間、日本全国の栽培面積の第1位を占めるとともに、現在では、国際的なイネ研究の標準品種として用いられています。

「日本晴」を開発した愛知県農業総合試験場で、1)主要品種の生産性と品質の維持を図るための計画的な種子生産に必要な原種の生産について、2)同一の水田を使用して90年以上にわたって無施肥の場合や、窒素など主要な肥料を欠く要素連年無施用、あるいは堆肥の連用試験といった世界的にも貴重な肥料試験研究について、研修員は学ぶことを予定しています。

研修員は、本研修を通じて、日本における稲作栽培における様々な工夫(種子、肥料等々)を実地に学びます。加えて、自国に適用できるノウハウを持ち帰ることで、自国におけるイネの品種改良から食料自給へとつながることを期待しています。

ぜひ取材をご検討ください。(日本語・英語の通訳がつきます。)

取材をご希望の場合は、取材前日17時までに下記宛にご連絡をお願いいたします。

## 【本件に関する問い合わせ先】

JICA 中部 研修担当 糸山 大志 〒453-0872 名古屋市中村区平池町 4-60-7	TEL : 052-533-0220 / FAX : 052-564-3751 e-mail: Itoyama.Hiroshi@jica.go.jp
---	---

## ■愛知県農業総合試験場訪問日時

日	時間	場所
7/9(火)	13:00~15:00	愛知県農業総合試験場安城農業技術センター 愛知県安城市池浦町境目1

(関連リンク)

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/anjyou.html> (愛知県農業総合試験場安城農業技術センター)